

外国人に利用しやすい路線バスを！

学校法人アミークス国際学園

沖縄アミークスインターナショナル小学校 6年生

古石 華子

皆さんは、路線バスの百二十番線に乗ったことがありますか。百二十番線は、那覇空港から名護の東江まで、百四のバス停を結んでいます。私は何度かこの百二十番線を利用したことがあります。ほとんどの人は、この百二十番バスの中の様子を知らないと思います。私は何度かこの百二十番線を利用したことがあります。私が乗ってみて分かったことは、百二十番バスは、外国から観光に来た人達の移動バスになっているということです。特に中国語を話すお客さんが多いです。今回の私の提案は、この百二十番バスを含め、いくつかの路線バスで、外国の人に、もっと利用しやすい工夫ができないかということです。

私が初めて百二十番バスに乗った時、県庁前から乗車したのですが、ステップを上がったとたんびっくりしてしまいました。とっつものにぎやかな車内から聞こえてきたのは、日本語でなく、なんと、全部中国語だったのです。一瞬、乗るバスを間違えたかなと意味が分からなくなりました。とりあえず乗って、車内を見渡すと、面白い光景が広がっていました。お客さん達は一人残らずと言っていいほど、中国語で書かれた沖縄観光の本を手にはしています。みんなレストランのページを開いて、指を差しながら、大声でぺちやくちやおしゃべりをしています。「好吃」などと聞こえてきて、めっちゃめっちゃ楽しそうです。通路には、大きくてカラフルなスーツケースが何個も置いてあり、車内が少し狭くなっています。

さらに驚いたのは、運転手さんと外国人の観光客の人達が、言葉の壁を越えて完璧なコミュニケーションがとれていたことです。信号待ちの時、観光客の人達は運転席に近づき、片言の日本語で一生懸命行き先の質問をしています。運転手さん達はいやな顔一つしないで、ゆっくりと同じ言葉を何度も繰り返してあげています。お客さんも嬉しそうに「アリガト、謝々」とお礼を言っています。短い時間でも、こんなにやさしいやり取りができるなら、国と国同士も今よりずっと仲良く、平和な交流が続いていくと思います。

外国人観光客は、ほとんどの人がアメリカン・ビレッジに行くようで、軍病院前というバス停で降りていきます。そして那覇向けのバスには、今度は買い物袋を山のように抱えた人達が乗り込んできます。こうして、路線バスで沖縄を観光する外国人も多いのです。

沖縄ツーリストの人に話を聞くと、国で決められた制度により、レンタカーを利用できない中国大陸からのお客さんが路線バスに乗ることが多いそうです。また、台湾や香港の方でも、団体ツアーにない沖縄を見たいと個人旅行を

する人も多いとネットで見ました。そんな人達に路線バスは人気なのです。もっと利用しやすいように、外国語の路線バスマップや、荷物を置きやすいバスを作るのはどうでしょう。また、バスの中では、座席の背についている「多言語サービス」の広告の紙があちこち抜き取られていました。きっと、外国人のお客さんが必要だと思って持っていったと思うので、多言語サービスのパンフレットを空港で配るのもいいと思います。路線バスには、沖縄の魅力をアピールする力があると思います。もしチャンスがあったら、皆さんもぜひ一度、百二十番線などの路線バスに乗ってみてください。